

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第181号(通巻第248号)

2020年1月31日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen-ml@yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※このセンターだよりで紹介した研究会, 研修, 教育フォーラムに関するお知らせは, 改変しない限り, 自由に複写, 配布していただいて結構です。

■ 愛知教育大学 視察報告

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 山本 英寿・饗場 宏
令和元年12月18日(水)及び19日(木), 愛知教育大学で展開されている「学校サポート活動」を中心とした教職養成プロジェクトについて, 山本英寿教授・饗場宏教授の2名が視察を行いました。同学における「学校サポート活動」プロジェクトは, 2017年度より開始された新しいカリキュラムで, 3年次生の10月に実施する主免教育実習, さらに4年次生5月に実施する副免実習, 夏の教員採用試験へと, より高い実践力を身に付けるとともに教職の幅をさらに広げるため, 主に学校現場で学ぶ活動を必修で実施しているものです。1年次生から, 現場での体験活動を必修で行うことは, このプロジェクトの大きな特色といえます。



「学校サポート活動」(国立大学法人 愛知教育大学リーフレットより)

1日目は, 愛知教育大学講堂で実施された全1年次生が出席する「学校サポート活動入門事後指導」(シンポジウム形式での振り返り)を視察しました。

1年次生は, 9月から10月末にかけ, 最低5日, 愛知県内各地の教育施設(約800か所)において, 現場体験活動を行ってきました。以降, 学生は体験活動をレポートにまとめ, またクラス単位での意見交流等を行う授業などが展開されています。本日の「学校サポート活動入門事後指導」は, 1年次におけ

る「学校サポート活動」を締めくくる活動として位置づいています。

講堂には900名を超える学生が会し、レポートの内容から選出された4名の学生パネリスト及び指導教員が登壇して進められました。指導教員は、数学教育講座の高井吾朗先生がお務めになり、先生からは、提出されたレポートについての概要紹介と、4名のパネリストは口火を切る役であることの説明等が行われました。また、4名のパネリストによる発表に沿ってパワーポイントに要旨を入力しながら投影され、発表内容を会場と共有しつつ進行されていました。

パネリスト1人目からは、特別支援学級での支援活動を体験した旨が報告され、自身の「日本語教育専修」に関わり、外国籍児童の支援についてもここでの経験を活かしたいといった発表がなされました。

2人目のパネリストからは、「技術専攻」であることを受け入れ先で考慮いただき、技術科の授業参観だけでなく、T2として授業も持たせていただけたことが報告されました。授業をとおり、生徒との関係



学校サポート活動入門事後指導

づくりが、自身にとって今後の課題であることといった内容で結ばれていました。

3人目のパネリストからは、母校での活動が実現したことや、母校だからこそ生徒時代は気づかなかった先生方の姿に触れることができたことが何より貴重な体験であったと発表されました。生徒であった時と立場の差を実感し、改めて教職志望を強くしたという思いも語られました。

4人目のパネリストからは、授業を支えたり、学校環境を整えたりする作業を多く体験し、先生方の仕事は、生徒の見えないところであることが多いということが分かった旨が報告されました。

4人からの発表後は、指導教員により各発表のポイントとなる項目が取り上げられ、会場から関連する意見を吸い上げるなど、発表内容からの学びを共有すべく、指導なされていました。4つの発表をまとめることはせず、挙げられた意見・感想について各自が考えや展望を持つことを促す内容の講評されていました。その後、来年度から履修する「学校サポート活動Ⅰ」についての説明が行われ、アンケートへの記入を促し、解散となりました。

2日目は、愛知教育大学の加納研究室において、生活科教育講座 教授 加納 誠司先生、教職キャリアセンター特任教員 玉田 弘 先生、教務課修学支援室 主任 若山 徳光 様より、同学で展開されている「学校サポート活動」を中心とした教職養成プロジェクトについて情報提供をいただきました。

- ・ 1 学年約920人、そのうち130名程度は教員養成課程ではない教育支援専門職課程の学生。ただし、「学校サポート活動」のカリキュラムは学年全体で取り組んでいる。
- ・ 近年、受験率が低下しており、教員採用試験受験者数に歯止めをかけるべく実施している。
- ・ 1 年次生の体験活動は見学が主であり、休み時間等には子どもと触れ合い、学習のサポートを行う。訪問時間は水曜日 1・2 限。保険は入学時加入のもので対応。
- ・ 2 年次生「学校サポート活動Ⅰ」では、毎週水曜日の午前を基準として帯で長いスパンで教職に触れる。9 月～12 月に週一回、3 時間×13 回を基本。
- ・ 3 年次生「4 体験活動」(選択必修)。A「学校サポート活動Ⅱ」(1, 2 年生からの流れそのま

- ま再度学校現場で学ぶ), B「自然体験活動」, C「企業体験活動」, D「多文化体験活動」。
・4年次生「小論文」

「1年生からの取り組みは、心配もありますが『先生になりたい』という強い志で入ってきた学生の意欲を発揮させるという点においては、効果的な取り組みだと自負しています。10月後半大学に帰ってきてからの事後指導, 11月にレポート作成, 12月にはレポートの内容からパネリストを選出して学年全体でシンポジウム形式での振り返りなどを行い, 成果や課題を共有し次なる方向性を示しています。」という, 加納誠司先生(本カリキュラムの授業科目, 実践育成科目専門委員会の副委員長, 4体験活動では企業体験活動のチーフ, 多文化体験活動のマレーシアBコースをご担当)の強い思いが印象的でした。教員就職者数が最も多い愛知教育大学(「平成30年3月卒業者の教員就職状況」文部科学省調査)であっても, 教員採用試験受験者数の減少という状況を課題としてとらえ正対し, このプロジェクトをはじめその対応策を全学体制で行っている様子等から, 加納先生のみならず同学教職員の決意を感じ取ることができました。

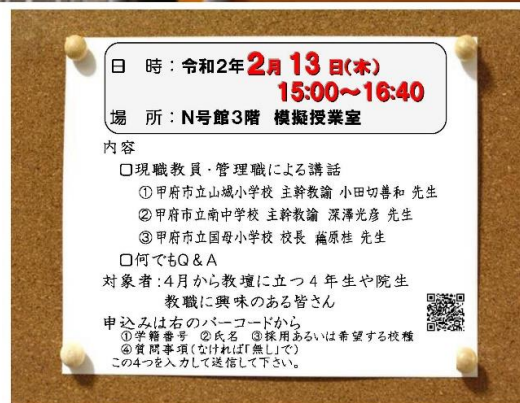
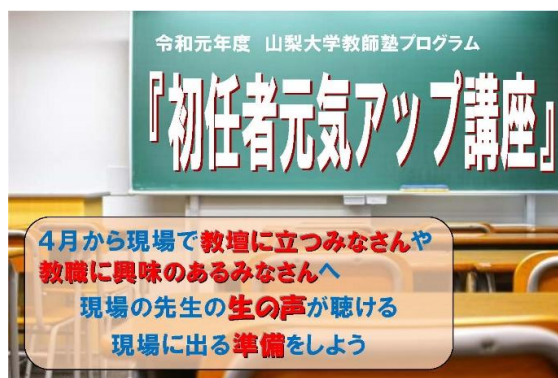
■ 令和元年度「初任者元気アップ講座」開催間近

11月のセンターだよりでもお知らせしたとおり, 附属教育実践総合センターでは, 山梨大学教師塾プログラム事業の一環として, 『初任者元気アップ講座』を開催いたします。4月から新採用, 期間採用, 講師などとして教壇に立つ予定の学生や将来教員を希望している学生を対象に, 学校現場の生の様子や教師としての心構え等について, 小・中学校の現職の教員や学校長から話を聞くことができます。

以下の日程で開催いたしますので, ぜひ, 多くの学生さんに参加していただきたいと思います。

- ◇期日 令和元年2月13日(木)
15:00~16:40
(受付は14:45~)
- ◇場所 N号館3階 模擬授業室
- ◇対象 4月から教壇に立つ予定の学生(4年生)
将来, 教員を希望している学生(学年不問)
- ◇内容 ①現職教員による講座(小・中学校主幹教諭)
②現職学校管理職による講話(公立学校長)
③何でもQ&A
- ◇申込 メール(jissen@ml.yamanashi.ac.jp)にて申し込みください。左記のバーコードからもメールできます。

(①学籍番号, ②氏名, ③採用あるいは希望する校種, ④質問事項(なければ「無し」)でこの4つを入力して送信して下さい。)



これまでのセンターだよりの一部は, <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。